

本
店具家んほ九
二八一 場工 電話
九五三 部業 電

報新濟經城磐

發行日 五日、十五日、二十五日
印刷所 大井川 幸隆
福島市石城郡平町十三番地
發行所 磐城經濟新聞社
廣告料 五號十二字 一行廿錢
場所指定十錢増
新聞定価 一部十錢 月二十錢
一ヶ月二圓四十錢

患者を喰物にする イン磐城共濟病院を葬れ

賀澤の罪惡端なくも曝露さる

三文眼科醫 賀澤忠治を主班とせる磐城共濟病院が如何に狡猾、惡辣なる營業方策に據つて善良なる患者を欺瞞しやマカンの施療により破格の暴利を收奪しつゝあるかは本紙の前號に於て指彈せる處なるが、其後に至つて賀澤等の罪惡は投書により、調査によつて益々曝露されるに至つた。

不肖、本紙一記者としての俺は、彼奴の所爲を默殺するに忍びず、確信に満ちて更に糾彈暴露の筆刀を揮ふこととし、泥的三文醫賀澤忠治が若し、名譽毀損、營業妨害の告訴を以て大井川に見參せんごせば、不肖、俺の大いに切望し願つてもない處だ。

親愛なる讀者諸君！ 賀澤若し原告に起たば、俺亦被告として、法廷に奴の罪惡を摘出し、假藉なき「共濟病院内幕曝露演説」を決定する迄の事だ。

左に調査を遂げた範圍に於て、賀澤忠治の惡德、罪狀を剔抉公開する。

マムケの癖に

圖太くズルイ賀澤の性根

利喰ひや書類の欺造は平氣の平座
抑も賀澤忠治が一介の眼を借入し、之を共濟病院に科醫當時は一回一貨付けてある、それだけなら問題はない。が

錢の洗眼患者(小學兒童)農銀より八分九厘の利子が三人位は来たさうだ、然るに更に一割二分利を以て飯が食へぬとあつて、先生て同病院に貸付けて東西に奔走し、今日の巨大なる共濟病院を創立するに至つたのであるが、賀澤先生に「共濟會には金を出して生計往を顧みて、感慨無量ある」と威張る資格が賀澤なきを得まい。

醫術にかけては全く無能に等しい賀澤も、山師金と同病院より引出すこと事業には器用な性分とこの詐欺的行爲が平然と見え、自己の私財を擔保して行はれるかと思へば、賀澤して農銀より二萬圓近き金澤の性狀飽くまで狡猾に出

來てゐることが判る。
× 時日は不明だが、先年盤銀よりの借入金
× 一萬五千圓の支拂ひに際しても、事實は同病院會計より出費されてゐるに不拘、恰かも賀澤が立替へ支拂ひをなしたる如き報告書を作成し何食はぬ顔でゐたことは一部會員の周知の事實である。

平警察署長に

鯉一本を進上して

押返へされた賀澤の醜体

由來病院に於て共濟、救療する時、低脳な彼の單純濟、博愛等の名稱を附な心に映じたこの道德的(???)所爲に對して、その多くは、眉つば

又彼が平素檢事局より出頭命令に接したる時、彼は共濟會の募集基金を納入せず私消してゐたので大いに周章狼狽し時の根本會計に云ひ付けて平銀の端山支配人にその衷狀を哀訴せしめ横領基金額を借入し之を懐ろにしシホ、退出した邊りを想知る處である。

當時、現町議×××君は、證人もある事實でゐたもの、如くだが、その子息に對する學費の出、共濟會總會に於て、徹り得た賀澤は、×××君の寛や、は平の西手の方で際々底的に指摘糾彈すべく準備大なる處置と同時に、その折柄、諸種の事情止む様消しに心を砕いて努力せざる口を縛してその發表する木村清治君に感謝すべきを差控へたる事は、記者のた。

最近、某理髮店の女房殿とイチャついてゐるといふ張旅費も支給せぬに對し、胡麻塩白毛の賀澤先生も己れは私用の外出にもその道に於ては驚異の精力出張旅費を請求する賀澤！

賀澤會長をやめさせろ
共濟病院の廓正淨化を期せ

然るに現在の磐城共濟病院、最低、於ても、職員、職員とは、その賀澤救濟病院以外の何物でもなく、賀澤は業績を揚げて、自己収益を多から圓の未拂波博士に三千五百しめんと目的を以て同病確實なる支拂を爲さざるは院に香具師の營業方針を採如何なる譯だ。

共濟會の聖規は賀澤の手を以て、汎ゆる欺瞞と欺善の面皮を冠つて善良なる患者より高額の報酬を收奪しに改訂し、理事、評議員等も必要を認めざる患者に副治療法としての注射、レントゲン乃至は糞尿其他の検査物等により、甚だしき苛敵誅求を恣にする事實は醫師の資格を有せざる記者にすら充分推測し得る處である、同病院經營困難の爲に斯る不正手段を採用しつゝあるとすれば、會長賀澤忠治は自己の責任を顧みて潔く自決しろ！

最近の同病院が日にその經營性質を劣惡化せしめ、益々不正邪惡の好策に於て營業を繼續するは獨り共濟病院の信用を低下せしめる加へ、開業醫に對する一般患者の信頼を失墜せしむる所以なのだ。

元、賀澤眼科好問分院の看護婦だった小林某といふ女、云ふ迄もなく之が賀澤湯本、御腕等と轉居せしめ

第二號費、家計費、子息の學費、出張費

共濟病院は賀澤の喰物だ!!!

(以下二面へ續く)

